

次期山口県教育振興基本計画策定に係る関係者意見について

県内教育関係者（小、中、高等学校、特別支援学校、社会教育関係者）に対し、次期計画策定に関して教育目標、推進指標、重点施策について聴取した意見の概要は以下のとおり。

1 教育目標について

- 今の教育目標はわかりやすく、また浸透しており、継承の方向でよい。
- 「3つの力」「3つの心」も、これからの時代に求められる、また有為な社会人になるためにも必要な資質・能力をよく表している。
- 「志」をキーワードとして教育目標に示してはどうか。
- 「目標」「姿」「力」「心」とあるので、学校現場で徹底するには項目を精選して取り組むとよい。
- 達成について教職員や保護者に周知を徹底していくことが大切。
- 新学習指導要領や国の第3期教育振興基本計画においても、方向性等が継承されており、わかりやすく本県の独自性も感じられる目標であるので、継承していくべきである。
- 教育目標等は「不易」に該当するものであり、時代の変化に伴い変更すべきものではないと考えるので、次期計画においても継承してほしい。
- 人口減少の克服に向けて、高校・大学卒業後は郷土で活躍し、郷土で生活をしていくためにも、山口県の良さの伝承や郷土愛の醸成に義務制段階からこれまで以上の取組をしていかないといけない。
卒業後を山口県で過ごす障害のある子どもたちのための施設の充実にも官民協力のもと支援を行い、その現場で指導支援する者を採用できれば、人口減少に貢献できると考える。
- めざすやまぐちっ子の姿は、150年前、維新を起こした先人の姿だと、改めて感じており、松下村塾で育まれた志や生きる力は、これからもやまぐちっ子に受け継がれていくことを望む。
- 育みたい3つの力や3つの心については、とても大切なものとして継続してもらいたい。

2 50の主な指標指標（前計画）について

- 指標の数が多く、特に大事なものを絞り込んでどうか。
- 定量的な結果データだけでなく、前計画の5年間の検証（分析）を行い、どこに課題があるのか、その真因を明確にする必要がある。
- 目標の妥当性を十分検討することが大事。
- 全国学力・学習状況調査の「全国平均を3ポイント上回る」という目標は、他県の結果等により平均が底上げされると、それに合わせて目標値も上昇することになるので、設定する目標として無理があるのではないか。
- 学校規模により状況が異なる場合などは、基準値そのものの検討が必要。
- 産出と成果の推進指標の関係や組み合わせが大切。
- 目標値達成のために数値だけを追うことがないように留意する必要があると思われる。例えば、いじめ問題に関する対応や解消率については、数値に表れてこない（回答に出てこない）事案が想定されるのではないか。

3 今後の重点施策について

- キャリア教育充実のため、教員側の地域産業や地元企業の理解促進
- 19市町教委全体をカバーするシステムやソフトの構築や導入支援
- 教育環境の整備について、県と市町で共有した目標の設定
- 新学習指導要領に対応した小学校英語専科教員の配置等、人的措置は現場にとって大変ありがたい。
- 教職員の人材育成は極めて重要。ここ10年間で育成の「山」であり、特に教頭になる（なれる）人材の育成が急務であるとする。
- 「主体的・対話的で深い学び」の推進に係る授業改善に関する目標
- ICT機器の充実、校内無線LANなど、新学習指導要領に向けた環境整備が目標にあるとよい。
- 人口の県外流出を防ぐため、地域や伝統・文化を踏まえた教育を推進
- 人口減少問題や地方創生の視点を教育目標や重点施策にも反映。
- インクルーシブ教育システム構築にかかわる合理的配慮の基礎となる基礎的環境整備の整理と実現
- 計画の内容を教員、保護者、地域が理解し、一体で推進することが大事。
- 子供たちの自己肯定感・自己有用感の育成
- 運動部活動のあり方に関する総合的なガイドラインを受け、休養日等の設定や体制整備について、各学校任せにならないような取組が必要。
- 高校におけるコミュニティ・スクールの充実に向けて関係機関、部署が連携して取り組んでいく事が重要。

4 今後の推進指標について

- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている児童生徒数の割合」の目標値は100%であるべき(生活指導・相談体制の充実)。
- 小学校の各種検定への受講者数或いは合格者数に係る目標値の設定など、英語教育に関する積極的な目標の設定
- コミュニティ・スクールの取組は、設置状況・実施状況等は目標達成しているため、活動状況・内容から見た目標設定を一考してはどうか。
- 「教育現場で取り組むもの」「教育行政で取り組むもの」「共同して取り組むもの」に分けて記述するとわかりやすい。
- 新計画は前計画との継続性を意識する場合、設定する指標及び目標数値も前計画からの継続が基本であろう。
- 就職を希望している特別支援学校の生徒の実態を考慮すると、就職率100%達成は難しいかもしれないが、生徒・保護者の希望を叶えるために、引き続き就職率を上げる取組を推進していく必要がある。
- 激変する社会を迎える子どもたちには、先が見えない遠くの目標を持つことよりも、今日1日を大切に生きることを大切にしてもらいたい。その積み重ねが、生きる力になると考える。

(以上)